



2021年3月期 決算説明資料

2021年5月28日

上場市場：東証二部
証券コード：9083





会社概要



2021年3月期 決算概要



2022年3月期 業績予想



株主還元方針



参考資料



会社概要



神姫バス株式会社

兵庫県南部を地盤とするバス専業会社グループ

1927年創業

連結営業収益では国内上場バス会社で第3位（2019年度）

連結従業員数は約3,200人

グループ輸送人員は年間約5,500万人

グループ走行キロ数は年間約4,800万km

グループバス保有台数は1,097両

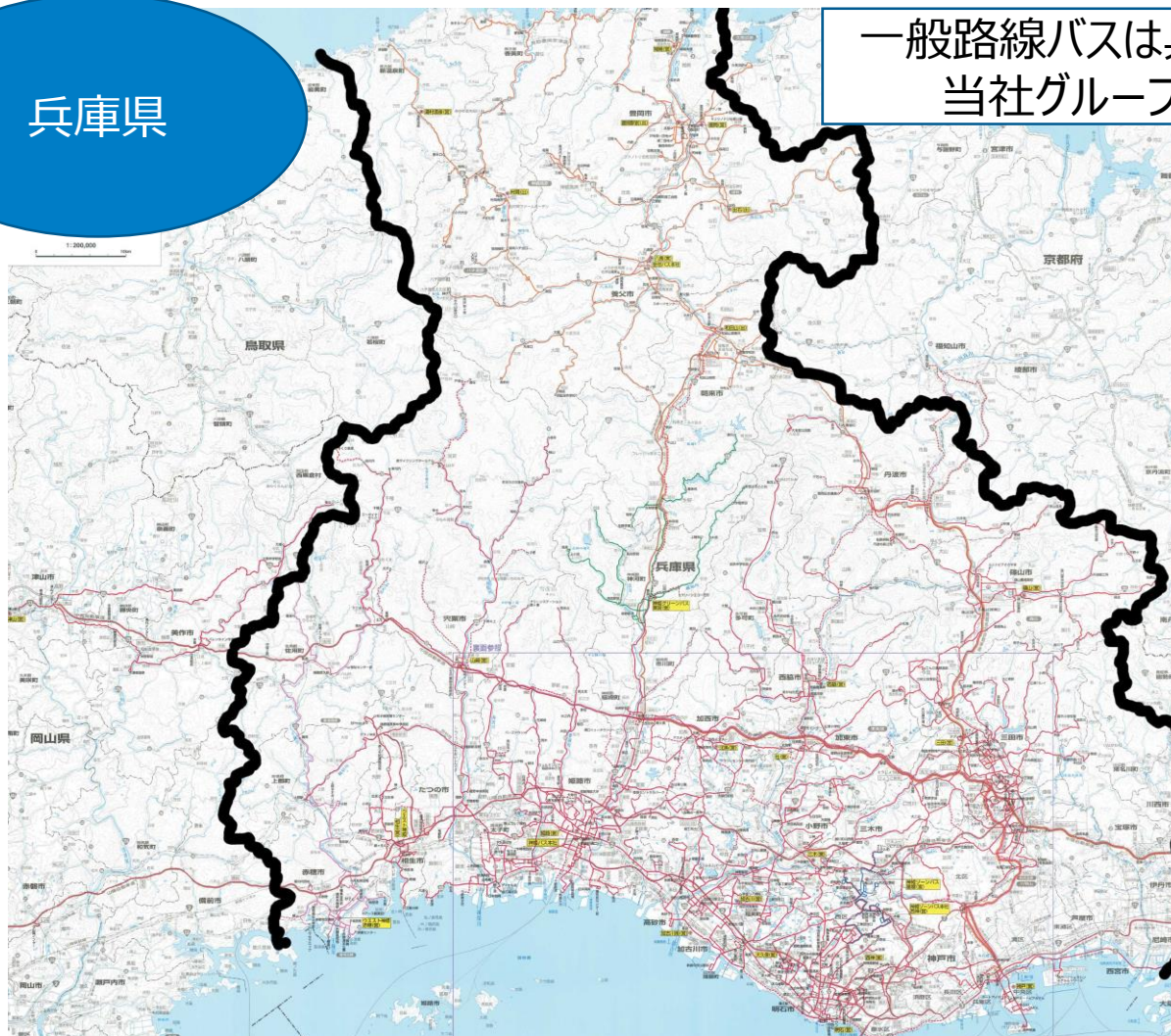
乗合車両…887両、貸切車両…118両、※特定車両…92両

※企業輸送など期間契約にて運行する車両

乗合バス（一般路線バス）全図

兵庫県

一般路線バスは兵庫県全域を
当社グループにて展開





2021年3月期 決算概要

自動車運送業（乗合バス事業）

- ✓ 第1回目の緊急事態宣言（4/7～5/25）では以下の対応
 - 一般路線バスは深夜便・学校専用便を除き、ほぼ通常運行を維持
 - 高速バスは淡路線を除き、ほぼ全便を運休
- ✓ 第2回目の緊急事態宣言（1/14～2/28）では以下の対応
 - 路線バスは深夜便を除き、ほぼ通常運行を維持
 - 高速バスは大半を運休

旅行貸切業

- ✓ 自社ツアー
 - 緊急事態宣言期間中は全てのツアーを中止
 - GOTOトラベルキャンペーンにより期間中のツアー単価は前年を上回る
- ✓ 貸切バス
 - 一般団体の自粛や学生団体の規模縮小などで稼働が低迷
- ✓ インバウンド
 - 外国人旅行者の消失により訪日外国人向けツアーの実施が皆無

その他の事業

- ✓ レジャーサービス業（飲食・高速道SA）が大きく影響を受ける
 - 緊急事態宣言期間を中心に臨時休業や営業時間の短縮
 - 感染拡大防止のため座席数などの制限

営業収益では対前年比20.9%の減収。当期純利益は1978年3月期の連結財務諸表作成義務化以降初の赤字

減収・赤字決算の主因はコロナ禍による自動車運送、レジャーサービス、旅行貸切の大幅な低迷。

(百万円)	2019/3期 実績	2020/3期 実績	2021/3期		対前年比		対予想比
			※予想	実績	増減額	増減率	差異
営業収益	45,889	45,076	35,300	35,669	△9,407	△20.9%	+369
営業利益	2,326	2,043	△2,940	△ 2,266	△4,309	-	+674
経常利益	2,567	2,224	△2,060	△ 1,314	△3,539	-	+746
経常利益率	5.6%	4.9%	-	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,749	993	△2,320	△ 2,167	△3,161	-	+153
※ROA	4.5%	3.9%	-	-	-	-	-

*ROA=経常利益/期中平均総資産

*予想=業績予想は2021年4月27日に開示したものが直近となるが、ここではその前に開示した2021年1月29日の業績予想を適用する。

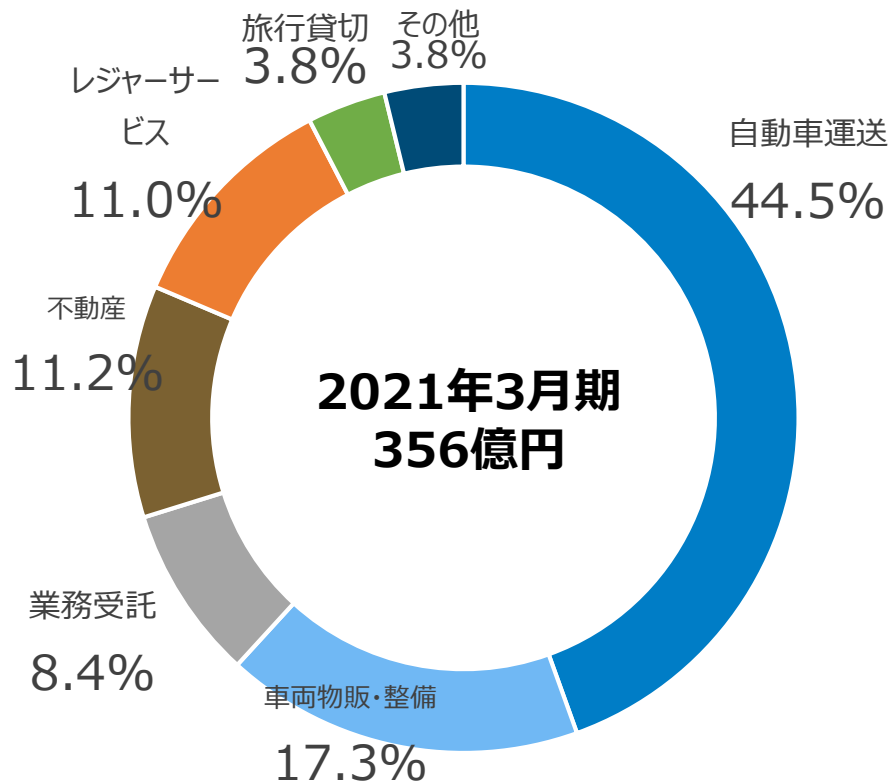
2021年3月期 セグメント別業績推移

(百万円)	2019/3期 実績	2020/3期 実績	2021/3期		対前年比		対予想比
			予想	実績	増減額	増減率	差異
営業収益	45,889	45,076	35,300	35,669	△9,407	△20.9%	+369
自動車運送	20,547	20,575	-	15,871	△4,704	△22.9%	-
車両物販・整備	6,180	6,223	-	6,184	△38	△0.6%	-
業務受託	2,985	2,988	-	2,983	△4	△0.2%	-
不動産	4,399	4,304	-	3,999	△304	△7.1%	-
レジャーサービス	6,125	5,568	-	3,917	△1,651	△29.7%	-
旅行貸切	4,119	3,962	-	1,352	△2,610	△65.9%	-
その他	1,530	1,455	-	1,361	△93	△6.5%	-
営業利益	2,326	2,043	△2,940	△ 2,266	△4,309	-	+674
自動車運送	397	170	-	△ 2,514	△2,685	-	-
車両物販・整備	455	508	-	421	△86	△17.0%	-
業務受託	222	245	-	203	△42	△17.2%	-
不動産	1,431	1,475	-	1,480	5	0.4%	-
レジャーサービス	57	45	-	△ 323	△368	-	-
旅行貸切	△218	△377	-	△ 1,445	△1,068	-	-
その他	△20	△4	-	△ 56	△52	-	-
(セグメント間取引消去)	2	△20	-	△ 33	△13	-	-

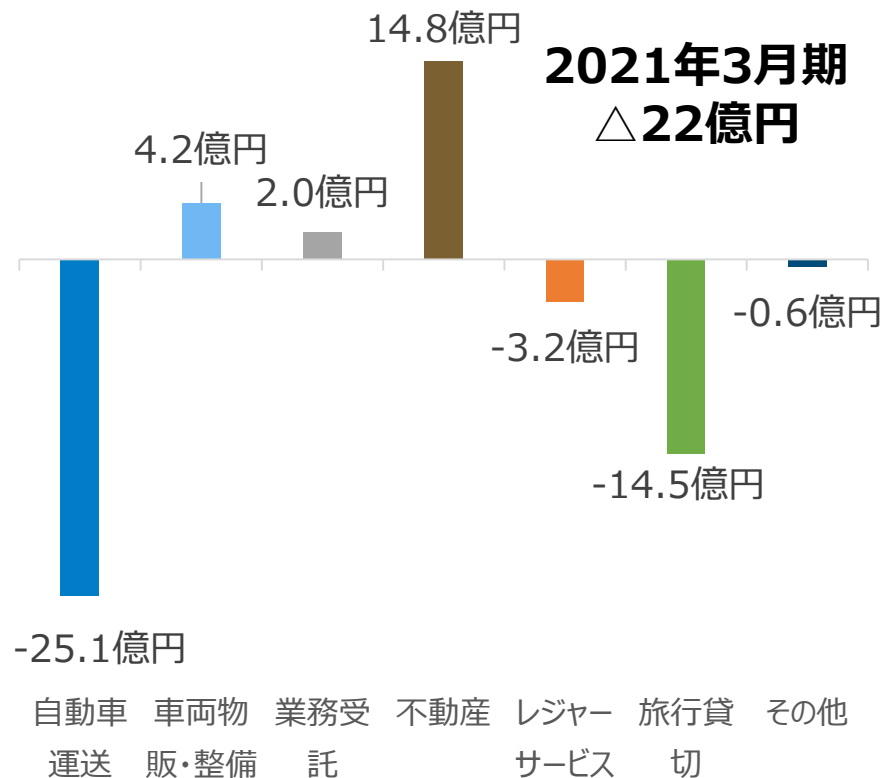
自動車運送は最大のセグメント。車両物販・整備や旅行貸切を含めた自動車運送関連事業は営業収益の65%を占める

一方、利益面での稼ぎ頭は不動産。コロナ禍においてもこの事業のみが増益となった。一方、自動車運送関連では、自動車運送の赤字転落や、旅行貸切の大幅な赤字増が影響し、全社的な赤字の主因となる

営業収益構成比



営業利益（単位：億円）





自動車運送

- ・高速バスの運行便数は**22.1%**減
- ・企業輸送増により特定収入は**7.8%**増



車両物販・整備

- ・車検台数は**0.8%**増
- ・中古自動車販売台数は**25.9%**減



業務受託

- ・受託管理件数は**4.3%**増
- ・車両管理台数は**0.5%**減少



不動産

- ・住宅販売戸数は**20.7%**減
- ・土地販売数も**22.2%**減
- ・建設工事は**38.3%**増



レジャーサービス

- ・サービスエリア3店舗の客数は**47.5%**減
- ・レストランの客数も**37.3%**減



旅行貸切

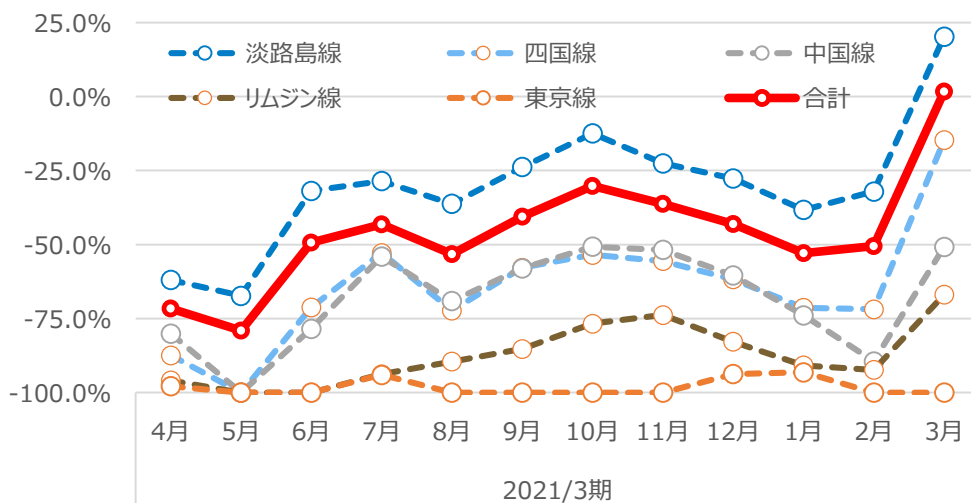
- ・貸切バス車両**33.3%**を減車(期間限定)
- ・訪日ツアー集客数は**98.2%**減
- ・国内バスツアー集客数も**72.3%**減

■ 高速バスの輸送人員は、生活路線である淡路島線を除き、各月△50%を超える状況

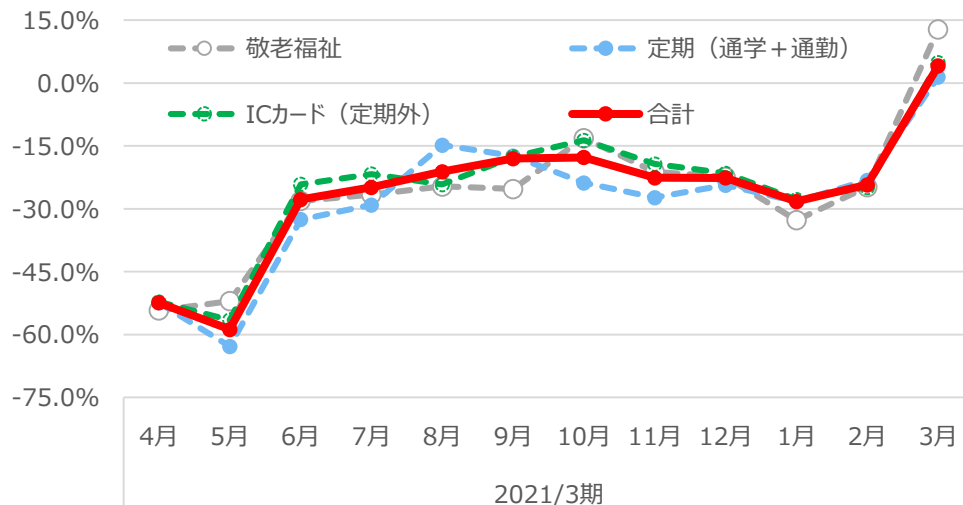
■ 一般路線バスの輸送人員は、6月以降回復し、△20%前後で推移

(百万円)	2020/3期				2021/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業収益	4,820	4,987	5,000	5,767	2,774	3,632	4,077	5,386
営業利益	△256	△164	△249	841	△1,780	△1,117	△546	929

高速バス 輸送人員 前年対比



路線バス ICカード利用人員 前年対比



- 賃貸事業はコロナ禍による解約や賃料値下げがあったものの、「ジョイア住道」の通期寄与などにより+5百万円。当期は、「ラウロ豊里」を取得
- 住宅販売では、販売戸数が建売住宅+3棟、注文住宅△6棟となり減収
- 建設工事では、こども園舎新築工事(進行基準55%)・住宅解体工事などの施工で大きく増収
- 多様化する働き方の需要にあわせ、シェアオフィス“いいオフィス@神姫バス”を開設

(百万円)	2020/3期				2021/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業収益	913	1,095	1,162	1,132	744	948	993	1,313
営業利益	338	449	382	303	320	355	351	454



ジョイア住道（'20/3取得）



ラウロ豊里（'20/8取得）



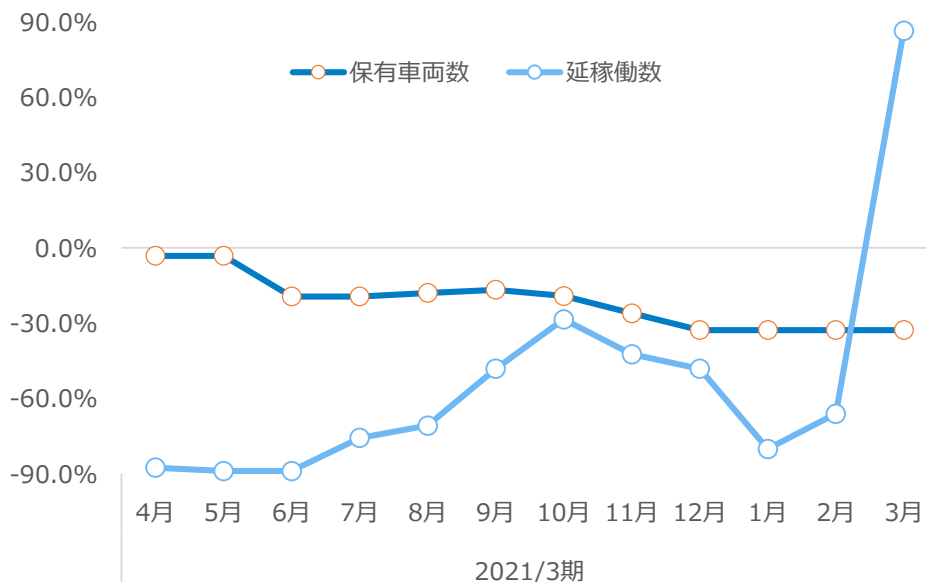
いいオフィス@神姫バス

■ コロナ禍による外出自粛が大きく影響し、減収

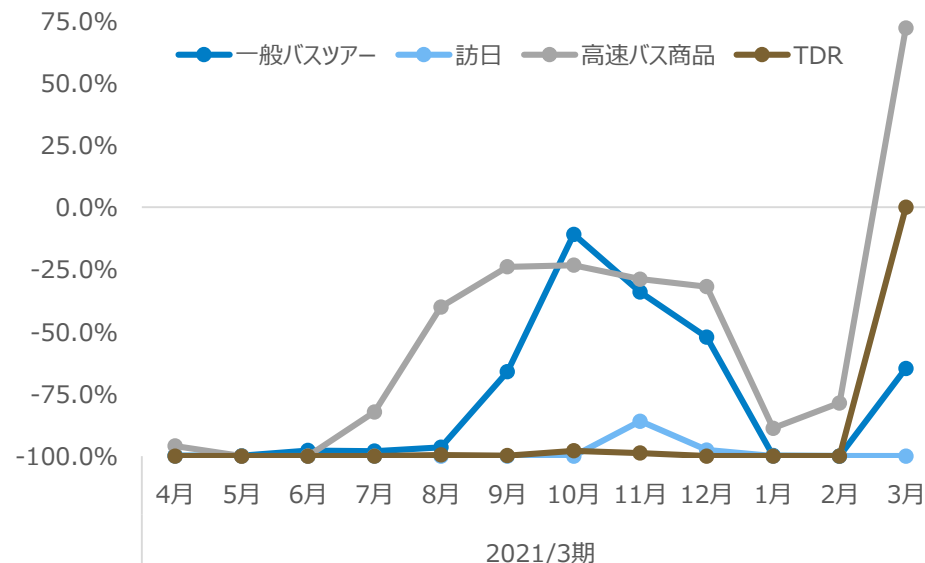
■ 秋の観光シーズンではGOTOトラベルにより回復するも、収支改善は限定的

(百万円)	2020/3期				2021/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業収益	1,100	950	1,219	691	66	295	700	289
営業利益	△6	△111	87	△347	△582	△406	△112	△343

貸切バス 保有車両数・稼働数 前年比

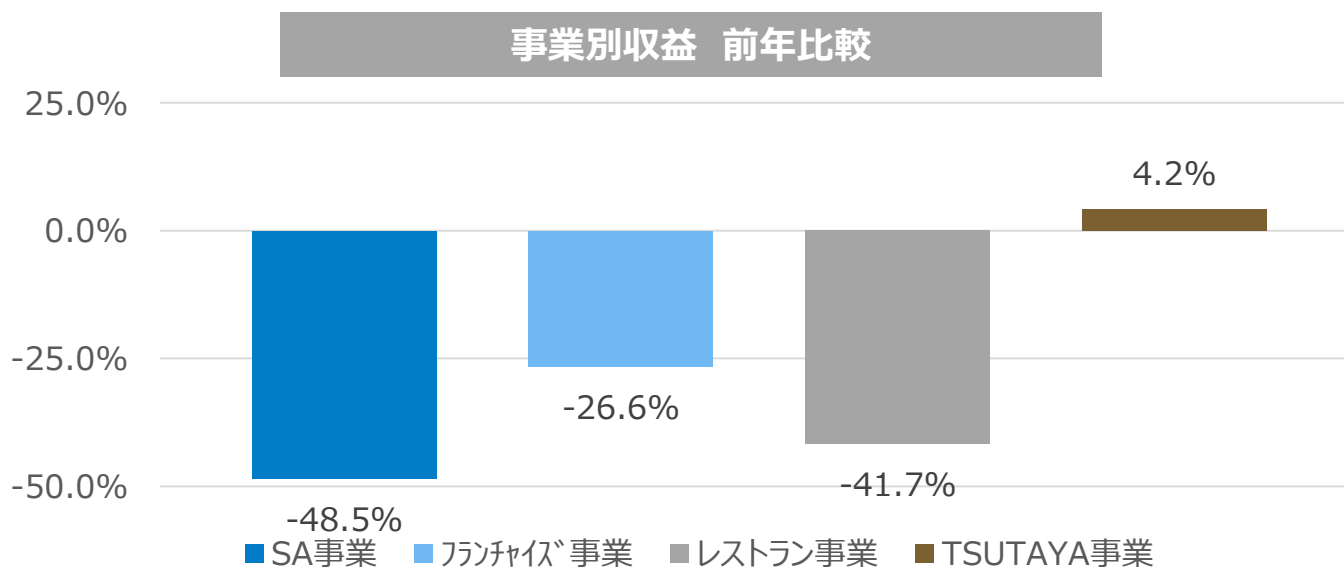


自社ツアー-集客人員 前年比



- サービスエリア事業は、通行量の減少はもとより、観光客の立ち寄り減が大きく響いた
- レストラン事業は、酒類提供店の時短営業やサルヴァトーレの閉店（10月）により大きく減収
- TSUTAYA事業は、巣ごもり需要や大ヒット漫画の特需があり、特に書籍で増収

(百万円)	2020/3期				2021/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業収益	1,388	1,507	1,425	1,246	820	1,068	1,096	931
営業利益	11	40	32	△39	△154	△54	△24	△89



連結貸借対照表

コロナ禍の厳しい状況ではあるが、車庫用地の取得など、必要な投資を行うため、借入金を意識的に積み増す

自己資本比率は71.8%と、財務安定性は維持

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	対前年比
流動資産	13,975	13,159	△815
現預金	7,369	5,940	△1,428
売掛金	4,630	4,968	+338
その他	1,975	2,250	+274
固定資産	42,312	43,982	+1,670
有形固定資産	34,708	36,702	+1,993
その他	7,603	7,280	△322
資産合計	56,287	57,142	+855
負債	13,125	16,071	+2,945
有利子負債	1,237	5,151	+3,914
未払金	2,755	2,597	△157
その他	9,132	8,322	△810
純資産	43,161	41,071	△2,089
負債純資産計	56,287	57,142	+855
※Net Cash	6,131	789	△5,342

主な固定資産 増減内訳

- ✓ 賃貸収益不動産増 (+7億円)
- ✓ 2車庫用地取得(+26億円)
- ✓ 償却・減損による減(△31億円)

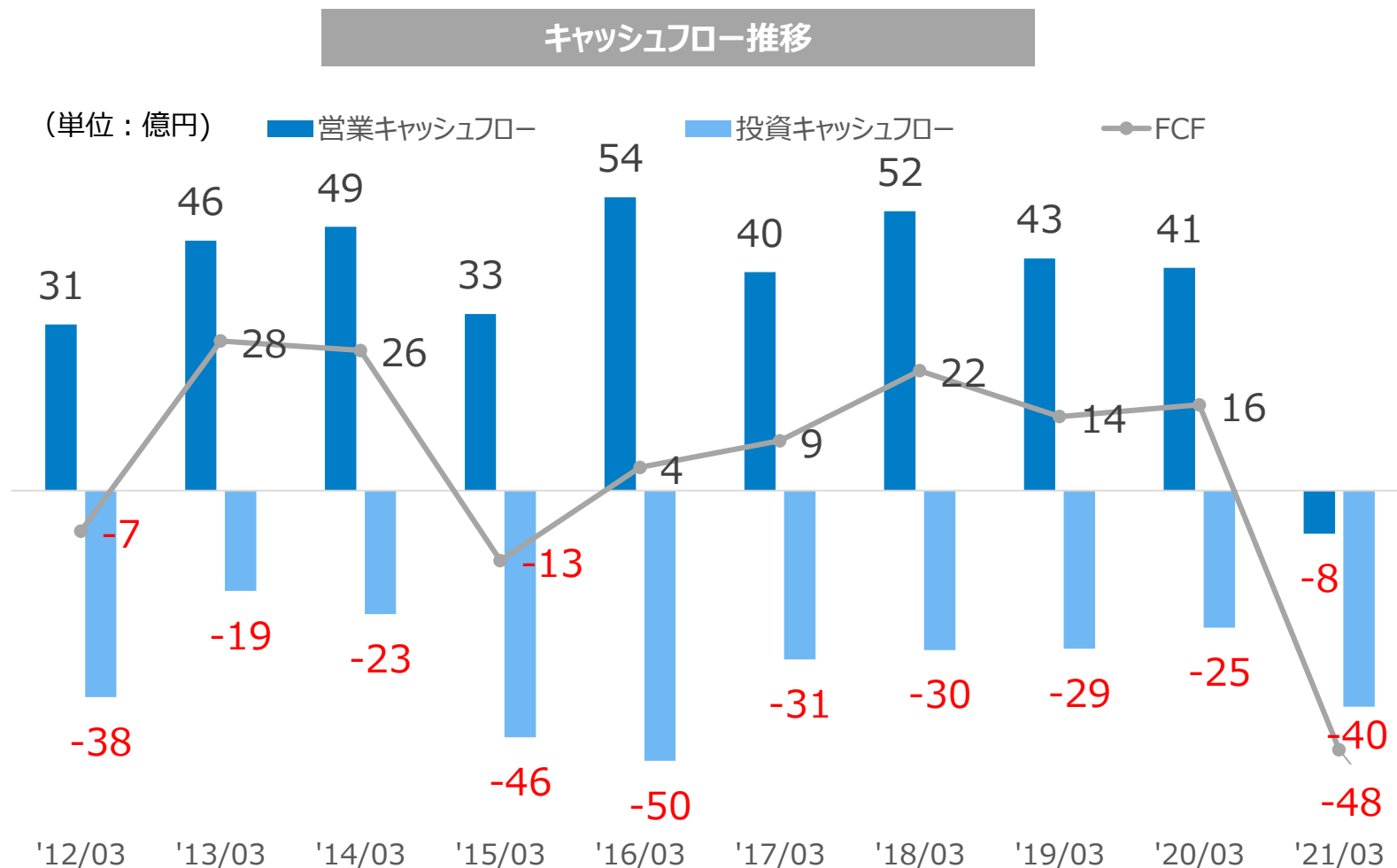
主な負債 増減内訳

- ✓ 長期借入金増 (+38億円)
- ✓ 未払税金費用減 (△7億円)
- ✓ 賞与引当金減 (△1億円)

自己資本比率71.8%

※Net Cash=期末現預金－期末有利子負債残高

営業CFは厳しい本業の影響を受けて赤字に転落。設備投資も必要最低限のものに圧縮したが、固定資産取得の支払いが嵩み、FCFは赤字を計上。手元資金取崩しと借入金増で対応



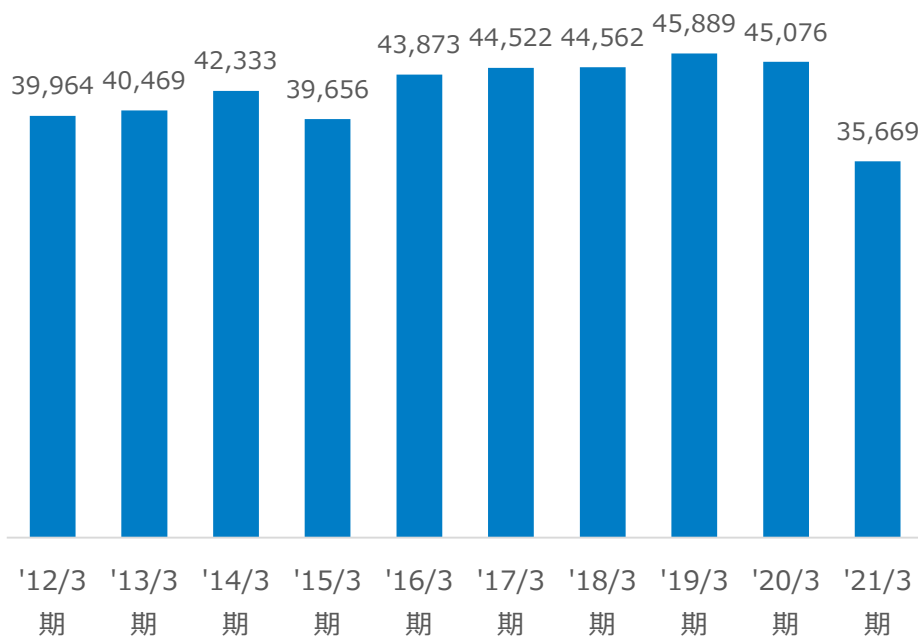
*FCF=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

営業収益は対前年比△20.9%。当期純利益も1978/3期の連結財務諸表作成義務化以降初の赤字

2020/3期までは事業拡大に向けての人員確保などが利益圧迫要因として影響。2021/3期はコロナ禍により赤字

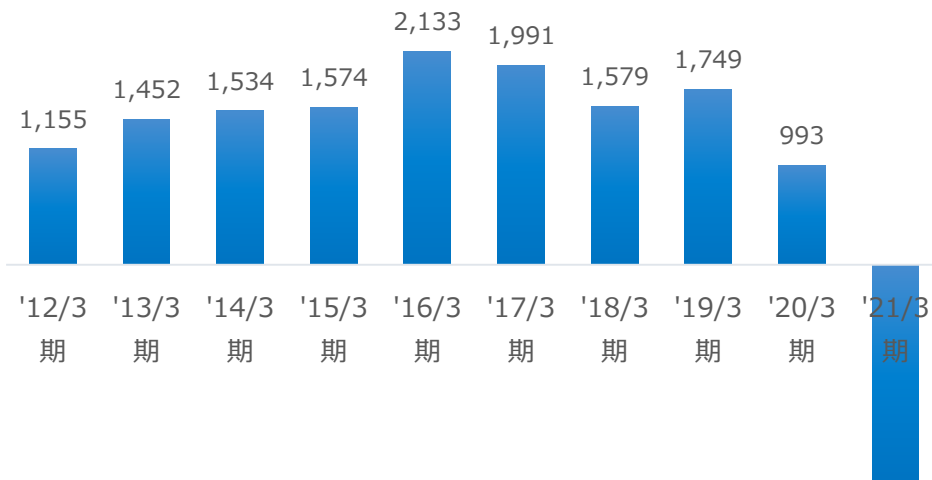
営業収益

(百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



△2,167



2022年3月期 業績予想

新型コロナウイルス感染症の収束時期は、依然として見通しが不透明であるが、ワクチン接種の進捗等により、第1四半期を底として、徐々に回復していくものと想定

(百万円)	2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 予想	対前年比	
				増減額	増減率
営業収益	45,076	35,669	41,100	+5,431	+15.2%
営業利益	2,043	△2,266	700	+2,966	-
経常利益	2,224	△1,314	1,020	+2,334	-
経常利益率	4.9%	-	2.5%	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	993	△2,167	500	+2,667	-
※ROA	3.9%	-	1.8%	-	-

※ROA=経常利益/期中平均総資産

2022年3月期 業績予想推移

(百万円)	2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 予想	対前年比	
				増減額	増減率
営業収益	45,076	35,669	41,100	+5,431	15.2%
自動車運送	20,575	15,871	17,023	+1,152	7.3%
車両物販・整備	6,223	6,184	6,051	△133	△2.2%
業務受託	2,988	2,983	3,345	+362	12.1%
不動産	4,304	3,999	4,276	+277	6.9%
レジャーサービス	5,568	3,917	4,226	+309	7.9%
旅行貸切	3,962	1,352	※4,686	+3,334	246.6%
その他	1,455	1,361	1,557	+196	14.4%
営業利益	2,043	△2,266	700	+2,966	-
自動車運送	170	△2,514	△554	+1,960	-
車両物販・整備	508	421	353	△68	△16.2%
業務受託	245	203	187	△16	△7.9%
不動産	1,475	1,480	1,516	+36	2.4%
レジャーサービス	45	△323	△132	+191	-
旅行貸切	△377	△1,445	△641	+804	-
その他	△4	△56	16	+72	-
(セグメント間取引消去)	△20	△33	△41	△8	-

※収益認識会計基準の適用による増収を含む



自動車運送

- ・中山間地…コミバス化、貨客混載バスの推進
 - ・小都市・団地…サブスク乗車券の検討
 - ・都市部…神戸エリアや中距離線の路線拡充
- あわせて、全エリアで、超小型モビリティの活用方法を検討し、エリア内の移動を活性化



車両物販・整備

- ・神戸営業所新設による一般車検の増強
- ・脱エンジン車両の整備レベル向上による新規顧客の獲得



業務受託

- ・10月より加西市地域活性化拠点施設の指定管理を新たに開始
- ・更なる地域の指定管理施設の獲得



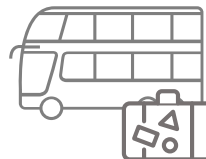
不動産

- ・収益物件の継続的な購入
- ・分譲宅地の積極的な仕入
- ・リノベーション物件販売の強化



レジャーサービス

- ・書籍販売は前年の特需がなく減収予想
- ・不採算飲食店舗の閉店
- ・業態変更による新規出店
→2021/3ハンバーグ食堂KUHオープン



旅行貸切

- ・訪日客数の低迷は続く予想
- ・学生団体を主に秋以降は需要回復
- ・国内バスツアーもワクチン接種以降に相当数が回復すると見込む



自動車運送業

神戸エリアへの展開

神戸ベイエリアの回遊性を向上させる連節バス「Port Loop」の運行や、ポートライナーの混雑の緩和に向けた神戸市ポートアイランド内の交通強化など、神戸中心エリアの当社事業を拡充



2021年4月より運行を開始した連節バス「Port Loop」

ポートアイランド内に新営業所を開設
(2021年5月)



バス収容能力の確保 (97両)
連節バスの整備拠点化
神戸市より路線受託拡大
神戸空港アクセス強化

神戸ベイエリアの重要交通インフラへ



神戸営業所 (完成予想図)



自動車運送業

コロナ禍による需要減退を補う取組み、環境にやさしい車両の導入、MaaSへの注力

コロナ禍においても、乗合バスの需要を創出する新たな取組みや実証実験の検証

脱炭素社会の実現に向け、バス事業者としてできること



周辺都市から大都市へ乗り換えなしで向かう中距離路線の拡充

- 4/1～ 姫路(北部)～三宮直行線新設
- 4/1～ 三田～大阪線増便

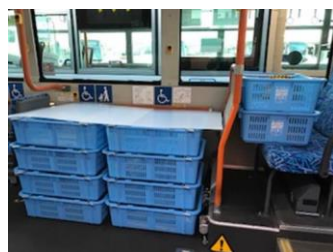


2021年4月 西日本で初となる水素で発電する燃料電池バス（水素バス）の導入
今後も、CO₂排出を抑制する車両を導入



前年度実施したエリア・期間限定乗り放題乗車券（サブスク）の効果検証と新たなエリアへの導入

MaaSにおける実証実験を継続的に実施し、超小型モビリティサービスは今年度の開始を目標

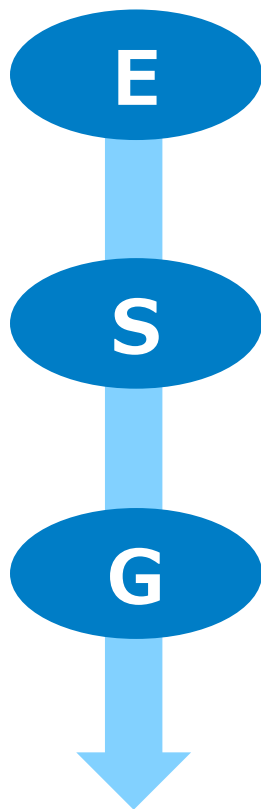


三田市で実証実験を行った「貨客混載バス」の本格運行開始（5/7～）と、新たに実施可能な路線へサービスを拡大



2020年7月兵庫県三田市中大型バスによる公道での自動運転実証実験を実施

2021年1月兵庫県播磨科学公園都市において、次世代モビリティサービスと総合したMaaSの実験を実施



E CO₂排出抑制に向けた環境にやさしい車両の導入
【燃料電池バス（水素バス）、ハイブリッドバス】

S まちづくり・地域づくりへの投資(人流を創ることで街と人を元気にする)
山間部での乗合バスだけではない移動手段と付帯サービスの提供
MaaSの実施に向けた実証試験の継続
都心への直通バス設置による通勤時間・通勤ストレスの圧縮

G 任意の指名・報酬委員会の設置（2021年4月27日付）
社外取締役比率50%（全役員に対する社外役員比率は57%）
→2021年6月の定時株主総会にて決議後

“ウィズコロナ”の時代でも住み続けられる街、元気な地域づくりを追求し、多様な経営視点を勘案した長期的に持続可能な成長を推進する

2021/3期は赤字となるも、長期安定配当という配当方針のもと、1株当たり年間17.50円の配当を実施

配当状況

(円)	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	前年差異
1株当たり当期純利益	66.11	262.17	290.55	164.99	△359.94	△524.93
1株当たり配当金	6.00	35.00	35.00	35.00	17.50	△17.50
※配当性向	9.1%	13.4%	12.0%	21.2%	—	—

※配当性向 = 配当金の支払い額/当期純利益

注) 2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しているため、2018年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定。

2022/3期の配当は、今後の業績動向を慎重に見極める必要があると判断し、未定



業績動向が見極められた段階で、可及的速やかに開示予定



参考資料

企業理念

地域共栄 未来創成

ビジョン

積み重ねてきたことと
私たちの成長のすべてを、
地域・社会に活かす。
未来につなげる。

「誠実に、果敢に、おもしろく」

誠実に

関わる人すべてを思いやり、責任を持って、やり遂げる。

一人ひとりが頼られる存在になるように、お客様、地域、取引先、株主のみなさま、社員など…関わる人すべてを思いやるのが私たちの要。積み上げてきた実績や伝統から真摯に学び、関わる人すべてに責任を持って、やり遂げることから新たな伝統が生まれます。

果敢に

変化や失敗を恐れずに、粘り強く挑戦し続ける。

変化や失敗を恐れることなく、現状に満足しないで粘り強く挑戦し続ける姿勢。知識や経験を活かし、型にはまらず、勇気ある行動を積み重ねていくことが成果や成功につながります。

おもしろく

自らの意志を持って、全力で仕事を楽しむ。

自らの意志を持って仕事に一生懸命取り組めば、私たち自身も、会社も、地域・社会も、未来も、もっとおもしろくなるはず。全力で、臨機応変に仕事を楽しくめるかどうか、これからの成長の鍵となります。

- 1927/08 神姫自動車株式会社誕生（資本金20万円）
- 1949/06 菱油商事が神姫産業株式会社（現・連結子会社）に商号変更
- 1952/06 赤穂合同自動車株式会社が神姫自動車株式会社神戸タクシー部を吸収合併し、神姫タクシー株式会社（現・連結子会社）に商号変更
- 1961/10 大阪証券取引所へ上場（市場第二部）
- 1969/03 遞送部門を分離し、神姫遞送株式会社（現・連結子会社）を設立
- 1970/09 シンキ興業株式会社（現・連結子会社神姫フードサービス株式会社）を設立し、飲食業を開始
- 1970/04 車両部門（板金・塗装等）を分離し、完全自動車整備塗装株式会社（現・連結子会社神姫商工株式会社）を設立
- 1972/05 神姫バス株式会社に商号変更、事業年度を1年（3月末日）に変更
- 1982/12 神姫観光株式会社の旅行業以外の事業を分離し、神姫商産株式会社（現・連結子会社神姫クリエイト株式会社）を設立し、1983年4月乗車券発売・広告・保険代理業等を開始
- 1984/01 株式会社ホープ（現・連結子会社神姫トラストホープ株式会社）を設立し、自動車の車両運行管理業を開始
- 1997/11 神姫観光バス株式会社（連結子会社）を設立し、1998年8月貸切旅客運送事業の運行部門の第一次営業譲渡を行い貸切旅行事業を開業
- 2006/01 株式会社ハウジング幸陽を買収（連結子会社株式会社エルテオに商号変更）
- 2012/03 神姫バスツアーズ株式会社（連結子会社）を設立
- 2012/04 神姫観光ホールディングス株式会社（連結子会社）を設立
- 2012/07 吸収分割により旅行事業を神姫バスツアーズ株式会社に移管更に、吸収分割により神姫バスツアーズ株式会社及び神姫観光バス株式会社の株式を神姫観光ホールディングス株式会社に承継させ、旅行事業及び貸切バス事業の経営を管理する中間持株会社体制を構築
- 2013/07 東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所（市場第二部）に上場
- 2016/10 タイ・バンコクにShinki International Co.,Ltd.（現・非連結子会社）を設立
- 2017/01 神姫産業株式会社が株式会社太陽商會を吸収合併
- 2019/03 Shinki International Co.,Ltd.がHeisei Enterprise Thailand Co.,Ltd.を買収し、Thai Cross Japan Tour Co.,Ltd.（現・非連結子会社）に商号変更
- 2019/04 東京オフィス開設
- 2019/10 株式会社エルテオが神姫バスオール株式会社を吸収合併し、神姫バス不動産株式会社（現・連結子会社）に商号変更
- 2020/02 株式会社ケアサービス神姫（現・連結子会社）を設立し、介護事業を分社独立化
- 2020/05 神姫観光バス株式会社が神姫観光ホールディングス株式会社、神姫バスツアーズ株式会社を吸収合併し、神姫観光株式会社に商号変更

財務ハイライト（連結経営指標の推移）

決算年月	単位	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
売上高	(百万円)	44,522	44,562	45,889	45,076	35,669
経常利益	(百万円)	3,027	2,821	2,567	2,224	△1,314
当期純利益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	1,991	1,579	1,749	993	△2,167
包括利益（親会社株主に帰属する）	(百万円)	2,099	1,692	1,039	455	△1,983
資本金	(百万円)	3,140	3,140	3,140	3,140	3,140
発行済株式総数	(千株)	30,860	6,172	6,172	6,172	6,172
純資産額	(百万円)	40,614	42,102	42,915	43,161	41,071
総資産額	(百万円)	55,585	57,371	56,638	56,287	57,142
1株当たり純資産額	(円)	6,737.43	6,986.55	7,121.77	7,162.92	6,816.37
1株当たり配当額	(円)	6.00	35.00	35.00	35.00	17.50
1株当たり当期純利益額	(円)	330.54	262.17	290.55	164.99	△359.94
自己資本比率	(%)	73.02	73.34	75.73	76.63	71.83
自己資本利益率	(%)	5.03	3.82	4.12	2.31	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,048	5,177	4,299	4,059	△815
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△3,124	△2,954	△2,926	△2,473	△4,022
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△1,197	△1,037	△775	△555	3,409
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	4,429	5,615	6,212	7,244	5,815
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕	(人)	3,280 〔1,728〕	3,207 〔1,748〕	3,281 〔1,789〕	3,293 〔1,758〕	3,158 〔1,569〕

※当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2018年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益額を算定しています。

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
総務部 秘書広報課
079-223-1241 (代表)
ir@shinkibus.co.jp